国の進めるCCS事業とは？問題は？

CCS:[Carbon dioxide Capture and Storage]の略で、CO2の回収と貯留を意味します。

地球温暖化ガスである二酸化炭素(CO_2)を回収して、地中に埋める、CCSと呼ばれる事業が全国で動き出しました。

千葉県では君津市の日本製鉄の高炉から出るCO_2を回収し、パイプラインで房総半島を横断、九十九里沖の地中に埋めます。年間120万トンから注入をはじめ30年代中ごろには500万トンに増やす予定です。　（参考：千葉県の温室効果ガス排出量は6,594万トン/2020年度）

【ＣＣＳ事業のイメージ図】

（図は「気候変動を考える東京湾の会」からの提供）

市原市内は姉崎袖ケ浦インター近くの天羽田→立野→上高根→中高根→光風台駅→磯ヶ谷を通り、長柄町へ抜けます。毎日利用する道路の地下に埋めることを計画しています。

次の理由から本事業は中止すべきと考え、質問しました。

環境への悪影響

パイプラインからのCO_2漏洩による地域住民の中毒事故の可能性。

CO_2を地中に埋め込むことによる地震の誘発性。

埋め込んだCO_2が漏洩し海の酸性化による生態系破壊が考えられます。

気候危機への有効な対策ではない

技術が未確立のため、多大な資金が必要となり、国内で計画される９事業で今後10年間で４兆円が必要と見込まれています。

また、化石燃料の使用を継続し、CO_2の排出を前提としています。技術開発に時間を要し、迅速な排出ゼロに寄与できません。

気候危機対策　人類は今、待ったなし

質問と答弁

気温上昇がある限界を超えると地球システムが急激に変化し、回復不能な状態につき進むことが明らかにされています。その臨界点を「ティッピングポイント」と呼び、グリーンランドと西部南極の氷床融解、永久凍土の急速融解が発生する温度（中央値）が1.5度とされています。

昨年夏の全国平均気温は平年より2.36度高く、統計史上で最も暑い夏となりました。世界気象機関は、世界の平均気温の上昇幅が昨年1.55度と単年度で初めて1.5度を上回ったと発表しました。

今まさに、ティッピングポイントを超えつつある状況です。早急にCO_2を排出しない技術開発や再生可能エネルギーを広げていくことが必要です。人類は待ったなしの状況なのです。